

AXIS A9210 Network I/O Relay Module

使用に当たって

ネットワーク上のデバイスを検索する

Windows®で検索したAxisデバイスにIPアドレスの割り当てを行うには、AXIS IP UtilityまたはAXIS Device Managerを使用します。いずれのアプリケーションも無料で、axis.com/supportからダウンロードできます。

IPアドレスの検索や割り当てを行う方法の詳細については、*IPアドレスの割り当てとデバイスへのアクセス方法*を参照してください。

ブラウザーサポート

以下のブラウザーでデバイスを使用できます。

	Chrome™	Edge™	Firefox®	Safari®
Windows®	✓	✓	*	*
macOS®	✓	✓	*	*
Linux®	✓	✓	*	*
その他のオペレーティングシステム	*	*	*	*

✓: 推奨:

*: 制限付きでサポート

装置のwebインターフェースを開く

1. ブラウザーを開き、Axis装置のIPアドレスまたはホスト名を入力します。本製品のIPアドレスが不明な場合は、AXIS IP UtilityまたはAXIS Device Managerを使用して、ネットワーク上のデバイスを見つけます。
2. ユーザー名とパスワードを入力します。装置に初めてアクセスする場合は、管理者アカウントを作成する必要があります。管理者アカウントを作成する, *on page 2*を参照してください。

AXIS OS搭載デバイスのWebインターフェースのすべての機能および設定に関する説明は、AXIS OS Webインターフェースのヘルプを参照してください。

管理者アカウントを作成する

装置に初めてログインするときには、管理者アカウントを作成する必要があります。

1. ユーザー名を入力してください。
2. パスワードを入力します。安全なパスワード, *on page 3*を参照してください。
3. パスワードを再入力します。
4. 使用許諾契約書に同意します。
5. [Add account (アカウントを追加)] をクリックします。

重要

装置にはデフォルトのアカウントはありません。管理者アカウントのパスワードを紛失した場合は、装置をリセットする必要があります。工場出荷時の設定にリセットする, *on page 16*を参照してください。

安全なパスワード

重要

ネットワーク上でパスワードやその他の機密設定を行う場合は、HTTPS (デフォルトで有効になっています) を使用してください。HTTPSを使用すると、安全で暗号化された形でネットワークに接続できるため、パスワードなどの機密データを保護できます。

デバイスのパスワードは主にデータおよびサービスを保護します。Axisデバイスは、さまざまなタイプのインストールで使用できるようにするためパスワードポリシーを強制しません。

データを保護するために、次のことが強く推奨されています。

- 8文字以上のパスワードを使用する (できればパスワード生成プログラムで作成する)。
- パスワードを公開しない。
- 一定の期間ごとにパスワードを変更する (少なくとも年に1回)。

デバイスのソフトウェアが改ざんされていないことを確認する

装置に元のAXIS OSが搭載されていることを確認するか、またはセキュリティ攻撃が行われた後に装置を完全に制御するには、以下の手順に従います。

1. 工場出荷時の設定にリセットします。工場出荷時の設定にリセットする, on page 16を参照してください。
リセットを行うと、セキュアブートによって装置の状態が保証されます。
2. デバイスを設定し、インストールします。

webインターフェースの概要

このビデオでは、装置のwebインターフェースの概要について説明します。



Axis装置のwebインターフェース

デバイスを構成する

I/Oポートを設定する

1. [Device > I/Os and relays > AXIS A9210 > I/Os (装置 > I/Oとリレー > AXIS A9210 > I/O)] に移動します。
 2.  をクリックすると、I/Oポート設定が展開されます。
 3. ポートの名前を変更します。
 4. 通常の状態を設定します。開回路には  を、閉回路には  をクリックします。
 5. I/Oポートを入力として設定するには:
 - 5.1. [Direction (方向)] で、 をクリックします。
 - 5.2. 入力状態を監視するには、[Supervised (状態監視)] をオンにします。監視入力, on page 15を参照してください。
- 注**
APIでは、状態監視I/Oポートと状態監視入力ポートは異なる動作をします。詳細については、「VAPIX®ライブラリ」を参照してください。
6. I/Oポートを出力として設定するには:
 - 6.1. [Direction (方向)] で、 をクリックします。
 - 6.2. 接続された装置を有効および無効にするためのURLを表示するために、[Toggle port URL (ポートURLを切り替え)] に移動します。

リレーを設定する

1. [Device > I/Os and relays > AXIS A9210 > Relays (装置 > I/Oとリレー > AXIS A9210 > リレー)] に移動します。
2.  をクリックすると、リレー設定が展開されます。
3. [Relay (リレー)] をオンにします。
4. リレーの名前を変更します。
5. リレーを有効および無効にするためのURLを表示するために、[Toggle port URL (ポートURLを切り替え)] に移動します。

イベントのルールを設定する

詳細については、「イベントのルールの使用開始」を参照してください。

アクションをトリガーする

1. [System > Events (システム > イベント)] に移動し、ルールを追加します。このルールでは、装置が特定のアクションを実行するタイミングを定義します。ルールは、スケジュールや繰り返しとして設定することも、手動でトリガーするように設定することもできます。
2. [Name (名前)] に入力します。
3. アクションをトリガーするために満たす必要がある [Condition (条件)] を選択します。ルールに複数の条件を指定した場合は、すべての条件が満たされたときにアクションがトリガーされます。
4. 条件が満たされたら実行するAction (アクション) を選択します。

注

- アクティブなルールを変更する場合は、ルールを再度オンにして変更内容を有効にする必要があります。

webインターフェース

AXIS OS搭載デバイスのWebインターフェースで利用可能なすべての機能と設定については、*AXIS OS Webインターフェースのヘルプ*に移動します。

詳細情報

分析機能とアプリ

分析機能とアプリを使用することで、Axisデバイスをより活用できます。AXIS Camera Application Platform (ACAP) は、サードパーティによるAxisデバイス向けの分析アプリケーションやその他のアプリの開発を可能にするオープンプラットフォームです。アプリとしては、デバイスにプリインストール済み、無料でダウンロード可能、またはライセンス料が必要なものがあります。

Axisの分析機能とアプリのユーザーマニュアルは、help.axis.comから参照できます。

AXIS Door Monitoring

このアプリケーションはドアの状態を監視し、ドアが開いている、閉まっている、ドアが長時間開いたままの状態を示します。たとえば、施錠は必要ないが開閉状態を知る必要がある防火扉に、このオプションを使用します。

通常のドアには、ドア位置センサー (REX) と、ロックおよびリーダーがあり、ドアコントローラーが必要です。

監視ドアには、ドア位置センサーとREXのみ必要で、ネットワークI/Oリレーモジュールを使用して監視することが可能です。各ネットワークI/Oリレーモジュールは、最大5つの監視ドアを接続することが可能です。

制限事項

このアプリケーションは、AXIS A9210でのみ利用可能です。REXはI/O 1およびI/O 2にのみ接続でき、I3、I4、またはI5にREXを設定することはできません。

AXIS Monitoring Doorの設定

名称	説明
ドア	ドアの番号。
DPS input (DPS入力)	ドアのDPS入力。
REX input (REX入力)	ドアのREX入力。
Door open too long time (sec)(長時間のドア開放 (秒))	ドアを開放したままにできる秒数。
アクセス時間 (秒)	アクセスが許可されてからドアのロック解除を継続する秒数。
状態	ドアの状態。

サイバーセキュリティ

サイバーセキュリティに関する製品固有の情報については、axis.comの製品データシートを参照してください。

AXIS OSのサイバーセキュリティの詳細情報については、『AXIS OS強化ガイド』を参照してください。

Axis Edge Vault

ハードウェアベースのサイバーセキュリティプラットフォーム「Axis Edge Vault」により、Axisデバイスを保護することができます。装置のIDと整合性を保証し、不正アクセスから機密情報を保護する機能を提供します。これは、エッジデバイスセキュリティに関する専門知識を駆使して、暗号コンピューティングモジュール（セキュアエレメントやTPM）とSoCセキュリティ（TEEやセキュアブート）に基づき構築された強力な基盤により成り立っています。

署名付きOS

署名付きOSは、ソフトウェアベンダーがAXIS OSイメージを秘密鍵で署名することで実装されます。オペレーティングシステムに署名が付けられると、装置はインストール前にソフトウェアを検証するようになります。装置でソフトウェアの整合性が損なわれていることが検出された場合、AXIS OSのアップグレードは拒否されます。

セキュアブート

セキュアブートは、暗号化検証されたソフトウェアの連続したチェーンで構成される起動プロセスで、不変メモリ (ブートROM) から始まります。署名付きOSの使用に基づいているため、セキュアブートを使うと、装置は認証済みのソフトウェアを使用した場合のみ起動できます。

安全なキーストア

秘密鍵の保護と暗号化動作のセキュアな実行のための改ざん防止環境です。これにより、セキュリティ侵害が発生した場合も、不正アクセスや悪質な抽出を防止することができます。セキュリティ要件に応じて、Axisデバイスには、ハードウェアで保護された安全なキーストアが可能となるハードウェアベースの暗号コンピューティングモジュールを1つまたは複数搭載することができます。セキュリティ要件に応じて、Axis装置は、TPM 2.0 (Trusted Platform Module) やセキュアエレメント、および/またはTEE (Trusted Execution Environment) などのハードウェアベースの暗号コンピューティングモジュールを1台以上持つことができ、ハードウェアで保護されたセキュリティキーストアを提供します。さらに、一部のAxis製品には、FIPS 140-2 Level 2認定のセキュアキーストアを備えています。

AxisデバイスID

デバイスIDの信頼性を確立するには、デバイスの出所を確認できることが鍵となります。Axis Edge Vaultを搭載したデバイスには、生産工程で、工場でのプロビジョニングされ、国際規格 (IEEE 802.1AR) に準拠した一意のAxisデバイスID証明書が割り当てられます。これがデバイスの出所を証明するパスポートのような役割を果たします。デバイスIDは、Axisルート証明書により署名された証明要素として、セキュリティで保護されたキーストアに安全かつ永続的に格納されます。お客様のITインフラストラクチャーでデバイスIDを活用し、装置のセキュアな自動化オンボーディングや、装置のセキュアな識別に役立てることができます。

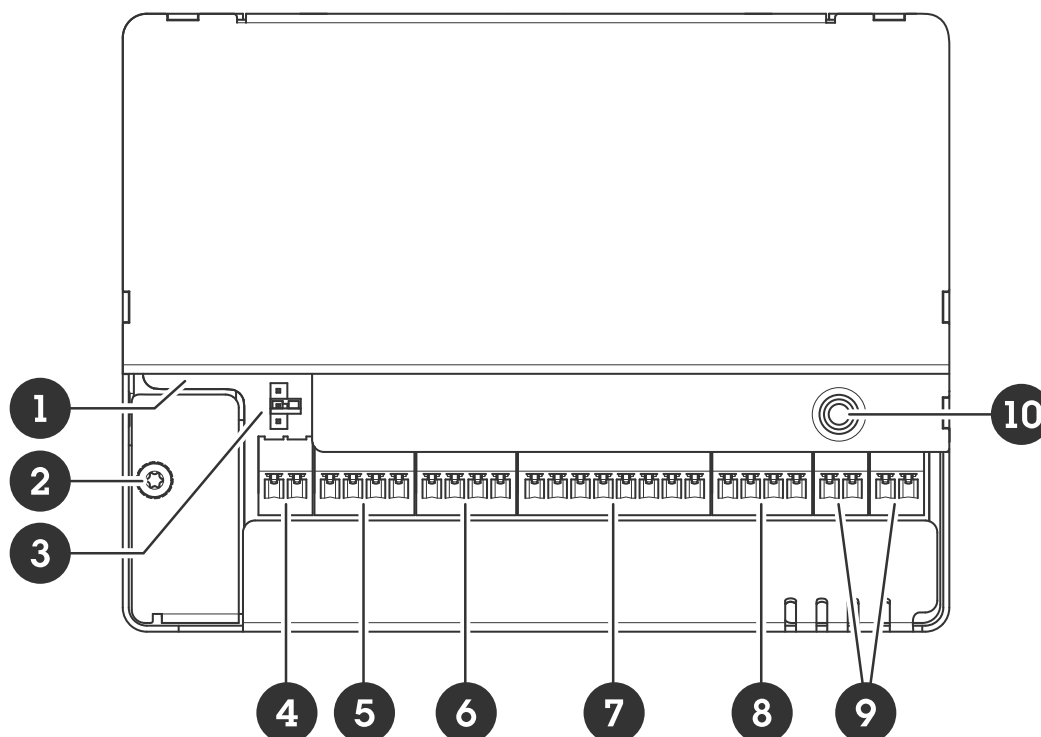
EFS (暗号化ファイルシステム)

安全なキーストアにより、ファイルシステムに強力な暗号化を適用することで、悪質な情報の抽出や設定の改ざんを防止することができます。これにより、装置が使用されていないときや、装置への認証されていないアクセスが行われたとき、Axis装置が盗難されたときに、ファイルシステムに保存されているデータが抽出されたり改ざんされたりすることがなくなります。セキュアブートプロセス中、読み書き可能なファイルシステムは復号化され、Axis装置でマウントして使用できるようになります。

Axis装置のサイバーセキュリティ機能の詳細については、axis.com/learning/white-papers/にアクセスし、サイバーセキュリティを検索してください。

仕様

製品概要



- 1 ネットワーク コネクター
- 2 アース位置
- 3 リレージャンパー
- 4 電源コネクター
- 5 リレーコネクタ
- 6 入力1コネクター
- 7 RS485およびI/Oコネクター
- 8 I/Oコネクター
- 9 入力2コネクター
- 10 コントロールボタン

LEDインジケーター

LED	カラー	説明
ステータス	緑	正常動作であれば緑色に点灯します。
	オレンジ	起動時、設定の復元時に点灯します。
	赤	アップグレードに失敗した場合に、ゆっくり点滅します。
ネットワーク	緑	100 Mbit/sネットワークに接続している場合、点灯します。ネットワークパケットを送受信した場合、点滅します。
	オレンジ	10 Mbit/sネットワークに接続している場合、点灯します。ネットワークパケットを送受信した場合、点滅します。
	消灯	ネットワーク接続なし。

電源	緑	正常動作。
	オレンジ	ファームウェアアップグレード中は緑とオレンジで交互に点滅します。
リレー	緑	リレーアクティブ。 ¹
	消灯	リレーが無効です。

ボタン

コントロールボタン

コントロールボタンは、以下の用途で使します。

- 製品を工場出荷時の設定にリセットする。工場出荷時の設定にリセットする, *on page 16*を参照してください。
- インターネット経由でワンクリッククラウド接続 (O3C) サービスに接続します。接続するには、ボタンを押してから放し、ステータスLEDが緑色に3回点滅するまで待ちます。

コネクタ

ネットワーク コネクタ

Power over Ethernet Plus (PoE+) 対応RJ45イーサネットコネクタ

UL : Power over Ethernet (PoE) は、44~57 V DC、15.4 W/30 Wを提供できるEthernet IEEE 802.3af/802.3at Type 1 Class 3、またはPower over Ethernet Plus (PoE+) IEEE 802.3at Type 2 Class 4 有限電源インジェクタによって供給される必要があります。Power over Ethernet (PoE) は、AXIS T8133 Midspan 30 W 1-portが搭載されたULによって評価されています。

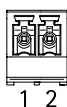
電源の優先順位

本装置は、PoEまたはDC入力から電源を供給できます。「ネットワーク コネクタ, *on page 10*」および「電源コネクタ, *on page 10*」を参照してください。

- 装置に電源が供給されていない状態でPoEとDCの両方を接続すると、PoEが電源供給に使用されます。
- PoEとDCの両方が接続されており、現在はPoEが電源を供給しています。PoEが失われた場合、本装置は再起動せずにDCを使用して電源を供給します。
- PoEとDCの両方が接続されており、現在はDCが電源を供給しています。DCが失われた場合、本装置は再起動し、PoEを使用して電源を供給します。
- 起動時にDCが使用されている場合、装置の起動後にPoEが接続されても、電源供給にDCが使用されます。
- 起動時にPoEが使用されている場合、装置の起動後にDCが接続されても、電源供給にPoEが使用されます。

電源コネクタ

DC電源入力用2ピンターミナルブロック。定格出力が ≤ 100 Wまたは ≤ 5 Aの安全特別低電圧 (SELV) に準拠した有限電源 (LPS) を使用してください。



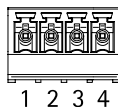
1. リレーが有効です。COMがNOに接続すると、リレーが有効になります。

機能	ピン	メモ	仕様
DCアース (GND)	1		0 V DC
DC入力	2	Power over Ethernet を使用しないときの装 置への電源供給用。 注:このピンは、電源 入力としてのみ使用で きます。	12 V DC、最大36 W

UL：アプリケーションに応じて適切な定格で、UL 603の認定を受けた電源によって供給されるDC電源。

リレーコネクタ

ロックやゲートへのインターフェースなどの制御に使用できるフォームCリレー用の1台の4ピンターミナルブロックです。ロックなどの誘導負荷とともに使用する場合は、過渡電圧から保護するために、負荷と並列にダイオードを接続します。



機能	ピン	メモ	仕様
DCアース (GND)	1		0 V DC
NO	2	Normally Open。 リレー装置の接続用。 NOとDCアースの間に フェイルセキアロッ クを接続します。 ジャンパーが使用され ていない場合、2つの リレーピンは回路の残 りの部分から電氣的に 分離されています。	最大電流 = 2A 最大電圧 = 30V DC
COM	3	コモン	
NC	4	Normally Closed。 リレー装置の接続用。 NCとDCアースの間に フェイルセーフロッ クを接続します。 ジャンパーが使用され ていない場合、2つの リレーピンは回路の残 りの部分から電氣的に 分離されています。	

リレー電源ジャンパー

リレー電源ジャンパーが取り付けられている場合、12 V DCまたは24 V DCをリレーCOMにピンに接続します。

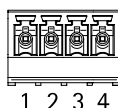
これはGNDピンとNOピン間、もしくはGNDピンとNCピン間のロックに接続するために使用できません。

電源	12 V DCでの最大電力	24 V DCでの最大電力
DC入力	2 000 mA	1 000 mA
PoE	350 mA	150 mA
PoE+	1100 mA	500 mA

入力1コネクタ

入力用に4ピンターミナルブロックが1個搭載されます。

終端抵抗器を使用した監視に対応しています。接続が中断されると、アラームがトリガーされます。状態監視入力を使用するには、終端抵抗器を設置します。状態監視入力の接続図を使用します。監視入力, on page 15を参照してください。



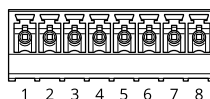
機能	ピン	メモ	仕様
DCアース	1, 3		0 V DC
入力	2, 4	デジタル入力/状態監視入力 - 有効にするにはピン1または3にそれぞれ接続し、無効にする場合はフロート状態 (未接続) のままにします。	0~30 V DC (最大)

重要

AWG 24のケーブル要件を満たす場合、ケーブルの長さは最大200 m (656フィート) です。

RS485およびI/Oコネクタ

4ピンRS485および4ピンI/Oを備えたターミナルブロック



RS485

機能	ピン	注	仕様
DCアース (GND)	1		0 V DC
DC出力 (+12 V)	2	Modbusセンサーなどの補助装置に電源を供給します。	12 V DC、最大200 mA
A	3		
B	4		

I/O

機能	ピン	注	仕様
デジタル出力	5	リレーなどの誘導負荷とともに使用する場合は、過渡電圧から保護するために、負荷と並	0~30 V DC (最大)、 オープンドレイン、 100 mA

		列にダイオードを接続します。	
デジタル出力	6	リレーなどの誘導負荷とともに使用する場合、過渡電圧から保護するために、負荷と並列にダイオードを接続します。	0～30 V DC (最大)、オープンドレイン、100 mA
入力	7	デジタル入力/状態監視入力 - 有効にするにはピン1に接続し、無効にする場合はフロート状態 (未接続) のままにします。	0～最大30 V DC
デジタル出力	8	リレーなどの誘導負荷とともに使用する場合、過渡電圧から保護するために、負荷と並列にダイオードを接続します。	0～30 V DC (最大)、オープンドレイン、100 mA

重要

- RS485に適したケーブル長は最大1000 m (3281 ft) です。ただし、次のケーブル要件を満たすことが前提です。シールド付きツイストペア (1組)、AWG 24、120Ωインピーダンス。
- I/Oに適したケーブル長は最大200 m (656 ft) です。

I/Oコネクタ

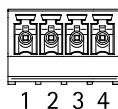
補助コネクタに外部装置を接続し、動体検知、イベントトリガー、アラーム通知などと組み合わせ使用することができます。補助コネクタは、0 V DC基準点と電力 (DC出力) に加えて、以下へのインターフェースを提供します。

デジタル入力 - 開回路と閉回路の切り替えが可能な装置 (PIRセンサー、ドア/窓の接触、ガラス破損検知器など) を接続するための入力です。

状態監視入力 - デジタル入力のいたずらを検知する機能が有効になります。

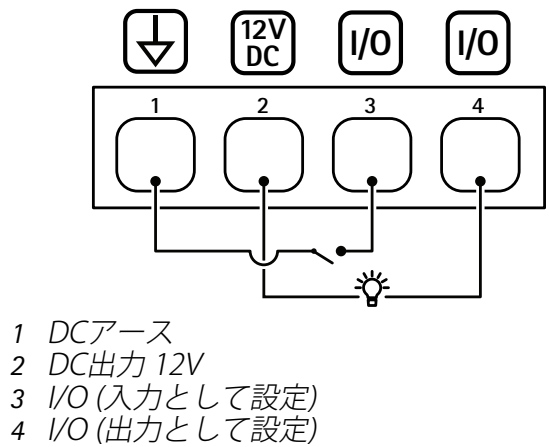
デジタル出力 - リレーやLEDなどの外部装置を接続します。接続された装置は、VAPIX®アプリケーションプログラミングインターフェースまたは製品のWebページから起動できます。

4ピンターミナルブロック



機能	ピン	メモ	仕様
DCアース	1		0 V DC
DC出力	2	補助装置の電源供給に使用できます。 注:このピンは、電源出力としてのみ使用できます。	12 V DC 最大負荷 = 合計 50 mA

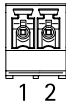
設定可能 (入力または出力)	3-4	デジタル入力/状態監視入力 - 有効にするにはピン1に接続し、無効にする場合はフロート状態 (未接続) のままにします。状態監視を使用するには、終端抵抗器を設置します。抵抗器を接続する方法については、接続図を参照してください。	0～30 V DC (最大)
		デジタル出力 - アクティブ時はピン1 (DCアース) に内部で接続し、非アクティブ時はフロート状態 (未接続) になります。リレーなどの誘導負荷と共に使用する場合、電圧過渡から保護するために、負荷と並列にダイオードを接続してください。I/Oは、内部12 V DC出力 (PIN 2) が使用されている場合、12 V DC、50 mA (複合最大) の外部負荷を駆動することができます。オープンドレイン接続を外部電源と組み合わせて使用する場合、I/Oはそれぞれ0～30 V DCで100 mAのDC電源供給に対応できます。	0～30 V DC (最大)、 オープンドレイン、 100 mA



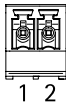
入力2コネクター

ガラスの破壊検知や火災検知などの外部装置で使用する2台の2ピンターミナルブロックです。

UL：このコネクターは、盗難または火災警報用途向けとしてはULによって評価されていません。



機能	ピン	メモ	仕様
DCアース	1		0 V DC
入力	2	デジタル入力/状態監視入力 - 有効にするにはピン1に接続し、無効にする場合はフロート状態 (未接続) のままにします。	0～30 V DC (最大)



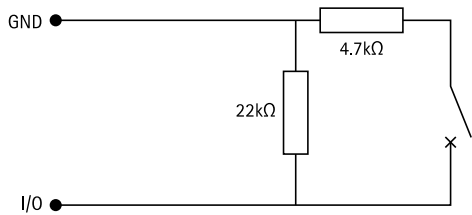
機能	ピン	メモ	仕様
DCアース	1		0 V DC
入力	2	デジタル入力/状態監視入力 - 有効にするにはピン1に接続し、無効にする場合はフロート状態 (未接続) のままにします。	0～30 V DC (最大)

監視入力

状態監視入力を使用するには、下図に従って終端抵抗器を設置します。

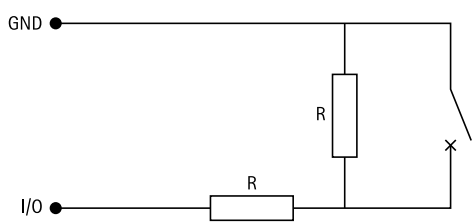
パラレルファースト接続

抵抗器の値は 4.7 kΩ及び 22 kΩである必要があります。



最初の直列接続

抵抗器の値は同じで、可能な値は1 kΩ、2.2 kΩ、4.7 kΩ、10 kΩ、1%、¼ワット標準です。



注

シールド付きツイストケーブルを使用することをお勧めします。シールドを0 V DCに接続します。

ステータス	説明
オープン	状態監視スイッチが開モードです。
終了	状態監視スイッチが閉モードです。
短絡	I/Oまたは入力1～5のケーブルがGNDに短絡しています。
切断	I/Oまたは入力1～5ケーブルが切断され、開モードのままでGNDへの電流経路がありません。

トラブルシューティング

工場出荷時の設定にリセットする

重要

工場出荷時の設定へのリセットは慎重に行ってください。工場出荷時の設定へのリセットを行うと、IPアドレスを含むすべての設定が工場出荷時の値にリセットされます。

本製品を工場出荷時の設定にリセットするには、以下の手順に従います。

1. 本製品の電源を切ります。
2. コントロールボタンを押した状態で電源を再接続します。製品概要, on page 9を参照してください。
3. ステータスLEDが再びオレンジ色に変わるまで、コントロールボタンを押し続けます (25秒間)。
4. コントロールボタンを放します。プロセスが完了すると、ステータスLEDが緑色に変わります。ネットワーク上にDHCPサーバーがない場合、装置のIPアドレスのデフォルトは次のいずれかになります。
 - **AXIS OS 12.0以降の装置:** リンクローカルアドレスサブネット (169.254.0.0/16) から取得
 - **AXIS OS 11.11以前の装置:** 192.168.0.90/24
5. インストールおよび管理ソフトウェアツールを使用して、IPアドレスの割り当て、パスワードの設定、製品へのアクセスを行います。

装置のwebインターフェースを使用して、各種パラメーターを工場出荷時の設定に戻すこともできます。[Maintenance (メンテナンス) > Factory default (工場出荷時の設定)] に移動し、[Default (デフォルト)] をクリックします。

AXIS OSのオプション

Axisは、アクティブトラックまたは長期サポート (LTS) トラックのどちらかに従って、装置のソフトウェアの管理を提供します。アクティブトラックでは、最新の製品機能すべてに常時アクセスできますが、LTSトラックの場合、バグフィックスやセキュリティ更新に重点を置いた定期的リリースが提供される固定プラットフォームを使用します。

最新の機能にアクセスする場合や、Axisのエンドツーエンドシステム製品を使用する場合は、アクティブトラックのAXIS OSを使用することをお勧めします。最新のアクティブトラックに対して継続的な検証が行われないサードパーティの統合を使用する場合は、LTSトラックをお勧めします。LTSにより、大きな機能的な変更や既存の統合に影響を与えることなく、サイバーセキュリティを維持することができます。Axis装置のソフトウェア戦略の詳細については、axis.com/support/device-software/にアクセスしてください。

AXIS OSの現在のバージョンを確認する

装置の機能はAXIS OSによって決まります。問題のトラブルシューティングを行う際は、まずAXIS OSの現在のバージョンを確認することをお勧めします。最新バージョンには、特定の問題の修正が含まれていることがあります。

AXIS OSの現在のバージョンを確認するには:

1. 装置のwebインターフェース > [Status (ステータス)] に移動します。
2. [Device info (デバイス情報)] で、AXIS OSのバージョンを確認します。

AXIS OSをアップグレードする

重要

- デバイスソフトウェアのアップグレードでは、既定の設定とカスタマイズ設定が保存されます。Axis Communications ABは、新しいAXIS OSバージョンで機能が利用可能であっても、設定が保存されることを保証できません。
- AXIS OS 12.6以降、お使いのデバイスの現在のバージョンからアップグレードバージョンまでのすべてのLTSバージョンをインストールする必要があります。たとえば、現在インストールされているデバイスソフトウェアのバージョンがAXIS OS 11.2の場合、デバイスをAXIS OS 12.6にアップグレードする前に、LTSバージョンであるAXIS OS 11.11をインストールする必要があります。詳しくは、*AXIS OS Portal: アップグレードパス*を参照してください。
- アップグレードプロセス中は、デバイスを電源に接続したままにしてください。

注

- アクティブトラックのAXIS OSの最新バージョンで装置をアップグレードすると、製品に最新機能が追加されます。アップグレードする前に、AXIS OSと共に提供されるアップグレード手順とリリースノートを必ずお読みください。AXIS OSの最新バージョンとリリースノートについては、axis.com/support/device-software/にアクセスしてください。
1. AXIS OSのファイルをコンピューターにダウンロードします。これらのファイルはaxis.com/support/device-software/から無料で入手できます。
 2. デバイ스에 管理者としてログインします。
 3. **[Maintenance (メンテナンス)] > [AXIS OS upgrade (AXIS OSのアップグレード)]** に移動し、**[Upgrade (アップグレード)]** をクリックします。

アップグレードが完了すると、製品は自動的に再起動します。

技術的な問題と解決策

AXIS OSのアップグレード時の問題

AXIS OSアップグレード失敗

アップグレードに失敗した場合、装置は前のバージョンを再度読み込みます。最も一般的な理由は、AXIS OSの間違ったファイルがアップロードされた場合です。装置に対応したAXIS OSのファイル名であることを確認し、再試行してください。

AXIS OSのアップグレード後の問題

アップグレード後に問題が発生する場合は、**[Maintenance (メンテナンス)]** ページから、以前にインストールされたバージョンにロールバックします。

IPアドレスの設定で問題が発生する

IPアドレスを設定できない

- デバイス用のIPアドレスと、デバイスへのアクセスに使用するコンピューターのIPアドレスが異なるサブネットにある場合は、IPアドレスを設定することはできません。ネットワーク管理者に連絡して、適切なIPアドレスを取得してください。
- そのIPアドレスは別のデバイスで使用されている可能性があります。以下の手順で確認してください。
 1. デバイスをネットワークから切断します。
 2. コマンドウィンドウまたはDOSウィンドウで、pingコマンドとデバイスのIPアドレスを入力します。
 3. Reply from <IP address>: bytes=32; time=10...という応答を受取った場合は、ネットワーク上の別のデバイスでそのIPアドレスがすでに使われている可能性があります。ネットワーク管理者から新しいIPアドレスを取得し、デバイスを再度インストールしてください。
 4. Request timed outが表示された場合は、AxisデバイスでそのIPアドレスを使用できます。この場合は、すべてのケーブル配線をチェックし、デバイスを再度インストールしてください。
- 同じサブネット上の別のデバイスとIPアドレスの競合が発生している可能性があります。DHCPサーバーによって動的アドレスが設定される前は、Axisデバイスは静的IPアドレスを使用します。つまり、デフォルトの静的IPアドレスが別のデバイスでも使用されていると、デバイスへのアクセスに問題が発生する可能性があります。

デバイスへのアクセスの問題

ブラウザからデバイスにアクセスする際、ログインできない

HTTPSが有効になっている場合、ログインを試行するときに正しいプロトコル (HTTPまたはHTTPS) を使用していることを確認します。場合によっては、ブラウザのアドレスフィールドに手動でhttpまたはhttpsを入力する必要があります。

rootアカウントのパスワードを忘れた場合は、デバイスを工場出荷時の設定にリセットする必要があります。手順については、工場出荷時の設定にリセットする, *on page 16*を参照してください。

DHCPによってIPアドレスが変更された

DHCPサーバーから取得したIPアドレスは動的なアドレスであり、変更されることがあります。IPアドレスが変更された場合は、AXIS IP UtilityまたはAXIS Device Managerを使用してデバイスのネットワーク上の場所を特定してください。デバイスのモデルまたはシリアル番号、あるいはDNS名 (設定されている場合) を使用してデバイスを識別します。

必要に応じて、静的なIPアドレスを手動で割り当てることができます。手順については、axis.com/supportにアクセスしてください。

IEEE 802.1X使用時の証明書エラー

認証を正しく行うには、Axisデバイスの日付と時刻をNTPサーバーと同期させなければなりません。[System (システム) > Date and time (日付と時刻)] に移動します。

ブラウザがサポートされていません

推奨ブラウザの一覧は、[ブラウザーサポート](#), *on page 2*を参照してください。

外部からデバイスにアクセスできません

装置に外部からアクセスする場合は、以下のいずれかのWindows®向けアプリケーションを使用することをお勧めします。

- AXIS Camera Station Pro:90日間の試用版を無料で使用でき、中小規模のシステムに最適です。

手順とダウンロードについては、axis.com/vms/にアクセスしてください。

MQTTの問題

MQTTオーバSSLを使用してポート8883経由で接続できない

ファイアウォールは、ポート8883を使用する通信を安全ではないとみなし、ブロックします。

場合によっては、サーバー/ブローカーによってMQTT通信用に特定のポートが提供されていない可能性があります。この場合でも、HTTP/HTTPSトラフィックに通常使用されるポート経由でMQTTを使用できる場合もあります。

- サーバー/ブローカーが、通常はポート443経由で、WebSocket/WebSocket Secure (WS/WSS) をサポートしている場合は、代わりにこのプロトコルを使用してください。サーバー/ブローカープロバイダーに問い合わせて、WS/WSSがサポートされているかどうか、どのポートと基本パスを使用するかを確認してください。
- サーバー/ブローカーがALPNをサポートしている場合、MQTTの使用は443などのオープンポートでネゴシエートできます。ALPNのサポートの有無、使用するALPNプロトコルとポートについては、サーバー/ブローカーのプロバイダーに確認してください。

デバイスの動作に関する問題

フロントヒーターとワイパーが作動していない

フロントヒーターまたはワイパーがオンにならない場合は、上部カバーがハウジングユニットの底部に正しく固定されているか確認してください。

このページで解決策が見つからない場合は、axis.com/support/のトラブルシューティングセクションに記載されている方法を試してみてください。

サポートに問い合わせる

さらにサポートが必要な場合は、axis.com/support/にアクセスしてください。

T10202445_ja

2026-02 (M7.2)

© 2023年 – 2026 Axis Communications AB